



レーザー光を遮光 脳腫瘍手術向けシート

河野製作所

【千葉】河野製作所の療法（PDT）で、（千葉県市川市、河野 淳一社長）は、悪性脳腫瘍に対する光線力学療法（PDT）に使用するレーザー光を遮光する「PDTシートⅡ」を7月1日に発売する。腫瘍周囲の血管と照射が完了した箇所にはレーザー光が当たらないように、不織布の間に挟んだアルミ箔（はく）で遮光する。価格は個別見積

り。初年度に1000箱（帯型1箱に50個入り、丸型1箱に80個入り）の販売を目指す。手術ではレーザーを照射することを目印を書いたシートを置き、レーザーの重複照射を防ぐ。シートは生理用食塩水に浸して使用することから、PDTシートⅡは、その環境でも文字がにじみにくい素材を使用。またレーザー光を照射中にシートが乾いて組織とくっつくこと、シートをはがす際に組織を傷つける可能性がある。そのためPDTシートⅡは多孔質な素材を採用し、組織にくっつきにくくしている。

悪性脳腫瘍は手術での完全切除が難しく、術後再発の可能性が高い。PDTは悪性脳腫瘍の切除後に、再発を予防する目的で行う日本発の治療だ。脳腫瘍に集積する薬剤を術前に投与した上で、手術によって脳腫瘍を切除し、その後、レーザー光を当て、術前に投与した薬剤を反応させ、目視で切除しきれなかった腫瘍細胞を死滅させる。

悪性脳腫瘍は手術での完全切除が難しく、術後再発の可能性が高い。PDTは悪性脳腫瘍の切除後に、再発を予防する目的で行う日本発の治療だ。脳腫瘍に集積する薬剤を術前に投与した上で、手術によって脳腫瘍を切除し、その後、レーザー光を当て、術前に投与した薬剤を反応させ、目視で切除しきれなかった腫瘍細胞を死滅させる。